

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○高等学校及び中等教育学校(後期課程)を対象とした具体的な取組内容①

○国際教育に関する指定校等への支援

神奈川大学及び神奈川県立国際言語文化アカデミアから外国語(英語)教育を専門とする講師を指定校等に派遣し、各校における研究の支援を行った。

平成26年度 港北高等学校、相模原中等教育学校、大磯高等学校
平成27年度 港北高等学校、相模原中等教育学校、伊勢原高等学校
平成28年度 大和西高等学校、伊勢原高等学校
平成29年度 大和西高等学校、小田原高等学校
平成30年度 小田原高等学校、横須賀明光高等学校

※平成30年度は「話す力(やり取り)を高める指導」をテーマとして、小田原高等学校と横須賀明光高等学校の2校が研究に取り組んだ。

○英語教員指導力向上研修

「話すこと」、「書くこと」、「読むこと」、「聞くこと」、教室英語、語彙・表現、コミュニケーションを支えるための文法、自己関連性の8カテゴリーに分けて、中央研修の受講者による伝達研修を3日間の日程で実施し、英語担当教員に必要な資質・能力の向上を図った。

講師は英語教育推進リーダーが担当。

受講者数
平成26年度 435名 平成27年度 622名 平成28年度 544名
平成29年度 544名 平成30年度 900名(予定数)

○英語教育アドヴァンスト研修

英語担当教員の英語指導力向上を効果的に推進できる人材を育成し、その成果を、公開授業、研究報告書等により他の教員に還元することで、英語担当教員全体のレベルアップを図った。

講師は神奈川県立国際言語文化アカデミアの外国語(英語)教育を専門とする教授及び専任講師が担当した。

受講者数
平成26年度 25名 平成27年度 25名 平成28年度 15名
平成29年度 15名 平成30年度 15名 5年間合計 95名

※英語教育アドヴァンスト研修の受講者から、特に指導力の高い受講者を中央研修に派遣した。

○総合教育センターでの年次研修

経験年数に応じたそれぞれのステージで、教科指導に関する専門的な知識や技能を習得し、生徒の個々の課題に応じた授業力の向上を図るとともに、組織的な授業改善に取り組むための手法について学ぶ。

- ・初任者研修講座 (平成30年度は72名が参加)
- ・1年経験者研修講座 (平成30年度は78名が参加)
- ・2年経験者研修講座 (平成30年度は70名が参加)
- ・5年経験者研修講座 (平成30年度は43名が参加)
- ・中堅教諭等資質向上研修講座 (平成30年度は40名が参加)

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○高等学校及び中等教育学校(後期課程)を対象とした具体的な取組内容②

○英語教員海外研修

平成28年度から、英語圏の語学研修に係る教育機関へ、本県の指定校であるグローバル教育研究推進校、学力向上進学重点校等の外国語(英語)科教員6名を派遣している。

参加者は、現地教育機関で、第2言語習得理論等について学び、英語教育に関する知識・技能を身に付けるとともに、現地の学校視察等を通して、自らの語学力と指導力を向上させる。

研修終了後、参加者は研修で得たさまざまな指導法について、自校での授業において実践し、その成果を公開授業等で他校の教員に紹介した。

○英語担当教員の英語資格・検定試験の助成

外部検定試験を活用した教員の英語力向上を図るための取組として、各校1名を上限として、実用英語技能検定準1級、及び、TOEIC公開テストの受験料の助成を行っている。

また、管理職対象の教育課程説明会及び外国語(英語)科教員対象の教育課程説明会において、外部検定試験の受験を促し、教員の英語力向上を図っている。

○生徒対象外部検定試験の受験料補助

生徒の主体的な英語学習を促し、英語4技能をバランスよく育成するとともに、県立高校の外国語(英語)科教員の授業改善をねらいとして、平成28年度より約8,000人の生徒を対象に補助している。

平成30年度は、(株)ベネッセコーポレーション『GTEC』の筆記テストとスピーキングテストについて、平成30年6月から平成31年1月までの期間で各学校で学年単位で実施した。

○神奈川県高等学校英語スピーチコンテスト

高校生の英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際性豊かな人材の育成を図ることを目的として、神奈川県高等学校教科研究会英語部会と県教育委員会の共催で実施している。

一般部門と総合部門があり、予選と本選を行い、本選では、各部門の1位から3位までの生徒を表彰する。

※「一般部門」: 海外での生活経験について条件あり。

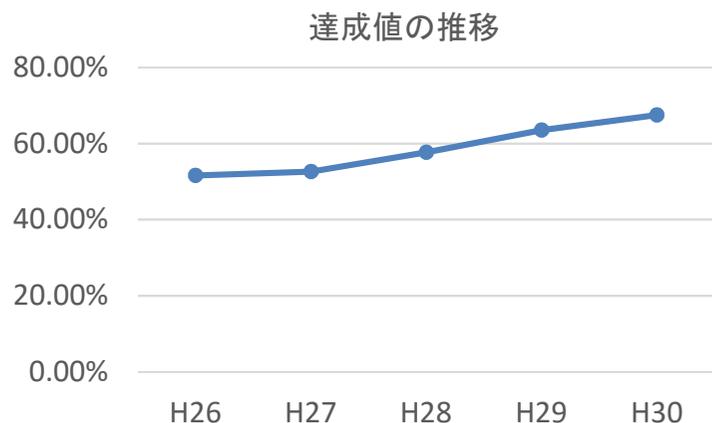
「総合部門」: 海外での生活経験の有無及び期間を問わない。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○成果と課題について①

○求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)

	H26	H27	H28	H29	H30
目標値	50	58	66	75	75
達成値	51.6	52.6	57.7	63.5	67.5



(成果)

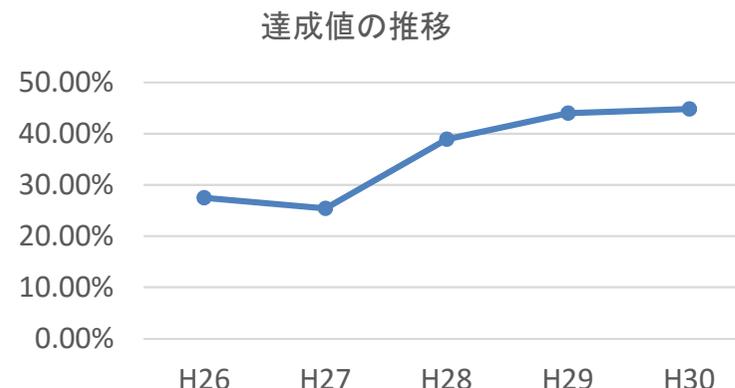
- 求められる英語力を有する英語担当教員の割合は、平成26年度は51.6%だったのに対し、平成30年度は15.9ポイント増の67.5%となった。これは、英語検定試験補助事業により、自らの英語力を客観的に把握する機会が増え、英語力を向上させようとする意欲が促進されたためと考えられる。

(課題)

- 目標値の数値(75%以上)に近づくよう、教員に対して英語力向上の必要性を研修会及び説明会等で周知し、さらに資格の取得に向けた啓発に努めていく必要がある。

○求められる英語力を有する生徒の割合(%)

	H26	H27	H28	H29	H30
目標値	28	35	42	50	50
達成値	27.5	25.4	38.9	44	44.8



(成果)

- CEFRのA2レベル以上を有すると思われる生徒の割合は、年々増加しており、平成29年度の達成値は全国平均を上回った。達成値が上昇している背景として、英語資格検定試験の活用が進み、生徒の英語についての言語能力を客観的に評価できるようになったこと、プレゼンテーションやスピーチ、ディベートなどの言語活動を取り入れた授業が増えてきたことが考えられる。

(課題)

- 授業において、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動をこれまで以上に実践する必要がある。また、個々の生徒の言語能力について、適切に評価し把握するような体制を整えていく必要がある。
- 校内でのパフォーマンステストの充実を図り、教員が的確に生徒の力を見取れるよう、説明会や研修等を通して効果測定の実施方法について改善していく必要がある。

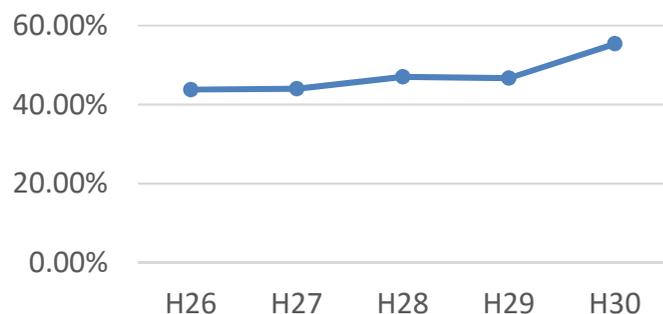
「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○成果と課題について②

○生徒の英語による言語活動時間の割合(%)

	H26	H27	H28	H29	H30
目標値	40	45	48	50	50
達成値	43.8	44	47	46.7	55.4

達成値の推移



(成果)

・平成26年度の43.8%から平成30年度には、目標値50%を5.4ポイント上回る55.4%となった。達成値上昇の理由として、従前と比較して、生徒の主体的・対話的で深い学びを意識した言語活動を中心とした指導が各学校の中で浸透してきたこと、さらには、研修等を通してさまざまな言語活動の手法を習得した教員が増えていることが考えられる。

(課題)

・目標値は上回ったが、教員の説明等による一斉授業がまだ4割以上を占めている状況がある。生徒主体のペア学習やグループ活動を取り入れ、生徒の言語活動が増えるよう授業改善を推進していく必要がある。

○英語担当教員の英語使用状況(%)

	H27	H28	H29	H30
目標値	75	75	90	90
達成値	43.9	53.2	55.4	59.4

達成値の推移



(成果)

・平成27年度の43.9%から平成30年度は15.5ポイント上昇し、59.4%の達成値となった。英語指導力向上研修等では、生徒の発話を引き出す指導方法や授業内でのインタラクションの仕方を紹介しているが、そのような指導方法を身に付けた教員が増え、各学校での実践に結び付けていることがポイント上昇の理由として考えられる。

(課題)

・目標値90%に向けて、英語で授業を行うことを、より一層意識させていく必要がある。どのような場面で効果的に英語で授業を展開していくことができるのか、研修協力校やグローバル教育推進校等での実践事例を紹介し、その普及に努めていく必要がある。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○成果と課題について③

○「コミュニケーション英語 I」におけるスピーキングテスト 及びライティングテストの実施状況

スピーキングテスト(回)

	H27	H28	H29	H30
目標値	1	1.5	2	2.5
達成値	1.2	1.7	2.1	1.5

ライティングテスト(回)

	H27	H28	H29	H30
目標値	1	1	1	1.5
達成値	0.6	0.9	0.9	1.5

(成果)

- ・スピーキングテストの年間の実施回数は、平成27年度の1.2回から少しずつ上昇し、平成29年度には2.1回まで増加した。
- ・平成30年度の達成値は1.5回と減少しているが、これは暗唱テストをスピーキングテストとみなさなくなったことが影響していると考えられる。
- ・ライティングテストの年間の実施回数は、平成27年度は1回に満たなかったが、平成30年度は1.5回と増加している。

(課題)

- ・CAN-DOリストに基づいた英語による発信力を評価するために、スピーキングテスト、ライティングテストなど、パフォーマンステストの実施回数を増やすよう指導する必要がある。

○「英語表現 I」におけるスピーキングテスト 及びライティングテストの実施状況

スピーキングテスト(回)

	H27	H28	H29	H30
目標値	1	1.5	2	2.5
達成値	1.2	1.9	2.1	1.5

ライティングテスト(回)

	H27	H28	H29	H30
目標値	1	1.5	2	2
達成値	1.1	1.9	1.5	1.9

(成果)

- ・スピーキングテストの年間の実施回数は、平成27年度の1.2回から少しずつ増加し、平成29年度には2.1回まで増加した。
- ・平成30年度の達成値は1.5回と減少しているが、これは暗唱テストをスピーキングテストとみなさなくなったことが影響していると考えられる。
- ・ライティングテストの年間の実施回数は、平成27年度の1.1回から平成30年度は0.8ポイント向上し、1.9回と増加した。

(課題)

- ・CAN-DOリストに基づいた英語による発信力を評価するために、スピーキングテスト、ライティングテストなど、パフォーマンステストの実施回数を増やすよう指導する必要がある。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○成果の普及・周知について

○グローバル教育研究推進校における公開研究授業

平成30年度は、小田原高等学校、横須賀明光高等学校、神奈川総合高等学校、鎌倉高等学校、大和西高等学校、横浜平沼高等学校において公開授業と研究協議を実施。

○英語教員海外研修参加者による公開研究授業

平成30年度は、横浜緑ヶ丘高等学校、川和高等学校、小田原高等学校、横須賀明光高等学校、大和高等学校、大和西高等学校において公開授業と研究協議を実施。

○外国語(英語)科教員対象の教育課程説明会

平成27年度 事例発表、国・県の動向 等
平成28年度 神奈川大学 久保野雅史教授
「4技能の指導と評価について」
平成29年度 東京外国語大学大学院 根岸雅史教授
「英語4技能の指導と評価について」
平成30年度 SGH(横浜国際高等学校)の取組、
新学習指導要領実施に向けて

○教育課程研究会研究推進委員会による研究集録作成

○課題解決のための手立て

- ・「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」については、目標値の数値(75%)を達成できるよう、教員に英語力向上の必要性を研究会等で周知し、資格の取得に向けての啓発に努めていく必要がある。
- ・「求められる英語力を有する生徒の割合」については、授業における英語による言語活動のより一層の充実を図り、生徒のコミュニケーション能力の伸長を図るとともに、外部試験とともに、定期的に校内でのパフォーマンステストの充実を図り、教員が的確に生徒の英語力を見取れるよう、研修等でもさまざまな効果測定の実施方法について周知していく。
- ・「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」については、生徒主体のペアやグループ活動を取り入れ、生徒の言語活動が増えるような授業改善を進めていく必要がある。また、研修協力校では、小・中学校と連携として、授業視察や研究協議をそれぞれの高等学校の近隣の小学校及び中学校で実施し、小・中・高の円滑な接続が行われるように取り組む必要がある。
- ・「英語担当教員の授業における英語使用状況」については、英語で授業を進めることについて、効果的に英語を進めていくような場面を研修協力校やグローバル教育研究推進校、アドヴァンスト研修受講者による実践事例の紹介や公開授業により、その普及に努めていく。
- ・「パフォーマンステストの実施」について、生徒が英語で発信することを評価できるように、評価方法について、研修等で普及し、確実に実施されるよう取り組む。

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県～

○小学校、中学校及び中等教育学校(前期課程)を対象とした具体的な取組内容

○小学校英語教育指導力向上研修

「話すこと」、「聞くこと」、「新教材の活用」、「校内研修の進め方」、「初期段階の読み書き」の категорияに分けて、中央研修の受講者による伝達研修を2日間の日程で実施し、英語担当教員に必要となる資質・能力の向上を図った。

講師は英語教育推進リーダーが担当。

受講者数

平成27年度	122名	平成28年度	121名
平成29年度	143名	平成30年度	117名

○自己研鑽研修講座

小学校外国語活動の授業の充実に向けて、授業で使用できる活動等を習得し、実践的な指導力の向上を図った。

「子どもに興味を持たせる活動の工夫」並びに「児童の意欲を高める活動の工夫」についての講義・演習、及び「コミュニケーション能力を育む外国語活動」についての実践報告を行った。

「小学校外国語レッツ・エンジョイ・イングリッシュ研修講座(3・4年向け)
(平成30年度は36名が参加)

「小学校外国語レッツ・エンジョイ・イングリッシュ研修講座(5・6年向け)
(平成30年度は38名が参加)

○英語教員指導力向上研修

「話すこと」、「書くこと」、「読むこと」、「聞くこと」、教室英語、語彙・表現、コミュニケーションを支えるための文法、自己関連性の8カテゴリーに分けて、中央研修の受講者による伝達研修を2日間の日程で実施し、英語担当教員に必要となる資質・能力の向上を図った。

講師は英語教育推進リーダーが担当。

受講者数

平成27年度	137名	平成28年度	131名
平成29年度	128名	平成30年度	115名

○総合教育センターでの年次研修

経験年数に応じたそれぞれのステージで、教科指導に関する専門的な知識や技能を習得し、生徒の個々の課題に応じた授業力の向上を図るとともに、組織的な授業改善に取り組むための手法について学ぶ。

- ・初任者研修講座 (平成30年度は30名が参加)
- ・2年経験者研修講座 (平成30年度は31名が参加)
- ・5年経験者研修講座 (平成30年度は29名が参加)
- ・中堅教諭等資質向上研修講座 (平成30年度は14名が参加)

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県立横須賀明光高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・課題：表情豊かに即興的な英語でのやり取りをするためにどのような指導をすればよいか。また、誰とでも英語で会話ができるようにするためにどのような指導をすればよいか。
- ・手立て：「やり取り」の指導と評価の仕方を外国語(英語)科全体で見直し、生徒が意欲的に英語で「やり取り」できる力を育む。

具体の取組の内容

・外部専門機関(国際言語文化アカデミア、神奈川大学)と連携し、英語担当教員対象の研修会を3回実施。

①Goals, Activities, and Assessment for Spoken Interaction ②Interaction for Reading and Sharing the Content ③英語力の中身と目標・活動・評価のつながり という3つのテーマで研修会を行い、やり取りの力を高めるための指導法を中心に、英語担当教員間で共通理解を深めた。

※同様の研究指定を受けている小学校及び中学校での授業参観及び情報交換を実施。

・研修会を通して生まれた3つの取組

(1)共通授業モデルの構築

Pre-reading, While-reading, Post-readingの構造で授業を組み立て、テキストの要点を理解した上で、新しい視点を獲得するためのやり取り活動を、授業の様々な場面で取り入れることを共通の取組とした。

(2)評価ルーブリックの作成

やり取りの力を高めるためのストラテジーを指導し、それらをスピーキングテストの評価ルーブリックに組み込むことで、指導と評価の一体化を図った。

(3)教材の共通化

単元ごとに共通の目標を設定した上で、基盤となる共通のワークシートを作成した。

成果①

・「4月に比べ、スピーキングに自信がついた」と回答をした生徒が約48.5%。(回答数313名。全年次対象。平成30年12月実施アンケート)

・「表情豊かに会話ができる」と回答をした生徒が、32.9%から46.8%に増加。(回答数313名。全年次対象)

7月	4	3	2	1
	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
人数	33人	70人	141人	69人
%	10.5%	22.4%	45.0%	22.0%

12月	4	3	2	1
	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
人数	47人	99人	110人	56人
%	15.1%	31.7%	35.3%	17.9%

成果②

・英語担当教員が「やり取り」やスピーキングの指導について、教員間で連携しながら指導力を高めることができた。

・生徒は、英語でコミュニケーションをとることに自信を持ち、「やり取り」を続けようとするようになった。

・研修や研究協議に、英語担当教員だけでなく他教科の教員や小・中学校の教員が参加し、学校間の接続を考えたり、教科横断的な指導にもつながることができた。

今後の課題・方向性

・教科指導力の全体的な底上げ

今回のアンケート結果では、数字が大きく伸びたクラスがある一方、伸び悩んだクラスもあった。伸び悩んだクラスに関しては、共通の授業モデル、共通の目標、共通のワークシートの使用だけでなく、コミュニケーション活動の意義について、生徒への意識付けがもっと必要であった。

高等学校入学以前の学習経験の違いにより、生徒の英語学習への意欲や英語力が異なるため、個々の生徒の実態に対応した柔軟な指導を行う必要がある。今後は、具体的な指導方法について研修をより充実させていきたい。

・評価ルーブリックの改善

観察から生徒の「やり取り」の力の伸びを見取ることができたが、指導の結果による生徒の英語力の伸びを、より適切に把握したり、生徒に目標を認識させたりするための評価ルーブリックの作成が今後の課題である。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～神奈川県立小田原高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・課題 : 新学習指導要領に示された「やり取り」の力の育成に向けて、指導方法を考える必要がある。
- ・手立て: 「やり取り」を行う学習活動を実践し、その成果と課題を把握する。

具体の取組の内容

★相手が述べたことについて質問することで「やり取り」を継続させることを目標とした。

1. 帯活動 “How was your weekend?” (ペアワーク) の実践

○週の最初の授業で実施する

○あいづち表現、やり取りに役立つ疑問文や質問例などをインプットする。

○パートナーが述べたことについて、あいづちや質問をするように促す。

○慣れてきたら、別のトピックでやり取りを行う。例 “Which is better, A or B?”, “What are you going to do this weekend?”

2. テキストの内容についてRetelling した後に、テキストの内容に関して自分の考えを述べ合う活動(ペアワーク)の実践

○平成29年度に取り組んだ “Retelling” を発展させて、教科書で読んだ内容について「やり取り」をする。

○手順

①本文を読んだ後に、Q&Aを行い、キーワードを板書する。

⑤読んだ内容についてどう思うかをお互いに質問し合う。

②キーワードをもとに “Retelling” のモデルを示す。

“What do you think about ~?”

③テキストを見ずに、“Retelling” をする。

⑥数名の生徒が読んだ内容に関する自分の考えを発表する。

④ペアを変えて、2回目の “Retelling” を行う。

成果①

○「やり取り」が続くようになった。

・実践前は、相手が述べたことに関する質問をすることがなかなかできず「やり取り」を30秒間続けることも困難だった。

・8月末から10月末まで実践したところ、ほとんどの生徒が質問をしながら1～2分程度の「やり取り」を続けることができるようになった。

・スピーキングテストの結果(12月)

①全員が質問することで「やり取り」を継続できた。

②生徒の約80%が、自然なタイミングで質問することができた。

成果②

○「やり取り」の力を育成する指導方法や生徒の変容を英語担当教員間で共有できた。

・若手教員が、実践を通して「やり取り」に関する指導についての理解を深め、指導力を向上することができた。

○様々なパターンの「やり取り」が見られるようになった。

・パートナーが述べたことについて質問するだけでなく、そのことに関して自分の考えなどを直接述べる生徒の姿も見られるようになるなど、「やり取り」のパターンが広がってきた。

今後の課題・方向性

○スピーキングテストの評価の改善

・12月は「やり取り」以外の観点も含めて生徒の「やり取り」を評価したが、「やり取り」に焦点を絞ることで簡素化する。

○様々な「やり取り」の実践

・質問し合うだけでなく、情報を交換し合う、経験や考えを述べ合うなど、「やり取り」のパターンを増やし、コミュニケーション活動を充実させる。

○取組の継続

・「やり取り」の活動を継続することで、生徒の発信力を伸ばすことができた。年間指導計画の中に、「やり取り」の活動を継続的・計画的に組み入れる。